

小規模多機能型居宅介護施設 きやま虹の家「サービス評価」 総括表

法人名	若狭町社会福祉協議会	代表者	山崎 和男	法人・事業所の特徴	若狭町初の「民家を改修した小規模多機能ホーム」であり、利用者さんには住み慣れた自分の家と同じような感覚で過ごして頂くことができる。また、常勤の正看護師が配置されており、機能訓練や褥瘡予防、体調管理等の助言などにも力を入れている。 また、地域の方には以前からの近所づきあいのように、とれたての季節野菜、果物等の差し入れがあったり、そのいただいた収穫物で作ったお菓子でお礼をするなど、温かい交流を続けている。
事業所名	小規模多機能ホーム きやま虹の家	管理者	中畑 奈々江		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	1人	(1)人	人	4人	1人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者カードの作成はその方の誕生日に作成するようにする。新規の初期アセスメントをし、丁寧な支援を心掛ける。 自分の意志を上手く伝えられない人についての支援方法を検討。そのため昔の得意なこととされていた仕事、興味のある事などを見つけ楽しみのある生活を送れるように支援する。	カード作成を誕生日に更新するようにしたが、全ての人の分を更新する事はできなかった。初期支援としては初回の訪問時に2名以上で訪問し色々な視点からアセスメントを行えた。 本人の得意な事に着目し、活動に取り入れたが新型コロナウイルスの流行もあり、活動に制限があった。訪問回数を増やし、事業所の様子だけではなく、自宅での様子を把握する事ができた。	コロナ禍の中、制限のある中でよく頑張ってくれていると思う。大きな施設ではなく少人数であるからできる取り組みなのではないかと思う。 介護度が偏っているように思うが経営は厳しくないのか。	目に見える形で目標や興味のあること、続けていきたいことが分かるように、本人の写真と一緒に掲示するようにする。 事業所として、感染対策を十分に行い、安心して利用していただける環境を作る。 訪問内容の見直しを行い、その人に合わせた臨機応変なサービスの提供を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	もっと気軽に寄っていただける雰囲気作りを今後も行っていく。利用者の方や家族や地域の方の意見をたくさんいただき、運営に生かせるよう交流の機会を今後も企画する。	感染症予防のため、虹の家への立ち入りを制限した事で、地域の方との関わりが減った。 感染症予防のため、消毒の徹底や検温、ロールスクリーン、テーブルにアクリルパーテーションの設置を行った。	虹の家に来たことがなく、今回初めて入った。	感染予防対策を徹底しながら、地域や小学校との交流が行える環境作りに努める。
C. 事業所と地域のかかわり	今後も地域の活動やイベントに参加し交流を深める。 地域の資源の活用では、若狭町や気山地区の資源を知り、活用につなげる。	地域の行事が中止になり、地域との関りがなくなった。そのため小学校に手作りマスクを配布し、繋がりをもった。	気山地区では今年は敬老会や公民館行事が中止になり、地域の行事はなくなっている。	感染症予防対策を行い、地域で行われる行事に参加していく。また、小学校との交流会などはリモートなどを活用できないか検討を行う。 地域の奉仕作業などに参加し地域の一員としての活動を行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今後も地域の活動やイベントに参加し交流を深める。 地域包括支援センターで行っている研修会に参加し、職員の資質向上に努める。	交流会が実施できなかったためエコバック作りを行い近所の方やにじカフェに参加して下さる方、おかずやお米など届けて下さる方に訪問し届けた。 研修は職員全員の参加はできなかった。	様々な取り組みをされているが、職員の方は負担になっていないのか。	買い物は必要な方には移動販売車の来る日には声を掛け、送迎や買い物介助を行う。また、サロンなどの活動に利用者も職員も参加し地域との交流を図る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	今まで以上に地域の相談所として利用してもらえるよう、「にじカフェ」の開催日が分かるチラシを配布しどの年代の方も気軽に来ただけするようにする。	コロナ感染予防のため、「にじカフェ」の開催を年度いっぱい中止し、第1回目の運営推進会議も中止となった。	地域の方から、心配な方についての相談はあるのか。それほどのような相談か。	地域の方からの相談ごとを運営推進会議の中で共有し、専門的な意見をいただきながら問題解決に取り組む。 感染症対策を行い、運営推進会議から発案された「にじカフェ」の再開を目指す。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練に参加し、災害を想定した訓練を行う。また、様々な災害を想定した話し合いができる機会を作り、家族の方とも共有する。	地域の防災訓練には、今年は参加していない。事業所も毎年消防署に来てもらい避難訓練を行っていたが、消防署より今年は何っての訓練は行えないとの事で、虹の家の職員と利用者で避難訓練を行った。また、家族介護教室で緊急連絡先等の情報の確認のため、シートを作成することとなり徐々に家族に確認しながら行っている。	地区の防災訓練は、字（あざ）ごとに行い、一軒に一人の参加になった。コロナ禍の中人が集まる事で密になってしまう事を避けている。様々な災害を想定した訓練は必要だと思う。	年2回の避難訓練を今後も実施する。地域の防災訓練にはお誘いして頂き参加する。 災害発生を想定し、虹の家を利用している方の薬情報や既往歴、主治医などの情報を保管し災害時に活用していただけるようにする。